

戦争法廃止 共同広がる

ピースパレードに900人

東京・日野

東京都日野市で、「戦争法廃止」「平和憲法を守ろう」の思いを共有する市民や政党による共同の輪が広がります。1月31日には市内で「平和のつどい&ピースパレード」が開催され、約900人の市民が参加。日本共産党など野党5党の議員が連帯のスピーチやメッセージを寄せました。



パレードを歩く子ども連れの参加者ら＝1月31日、日野市

1175人の連名チラシ10万枚

広げよう
2000万署名

2児を連れてつどい・パレードに参加した「ママの会@日野」の星野さなえさんは「各地で市民レベルの（日野のような）連帯ができてくれば、野党共闘にむけて影響をおよぼせると信じています」と語りました。日野市では、戦争法が国会で審議されていた昨年6月、自民、公明、民主などの議員が安保法の早期成立決議を議会であげました。しかし、2回のピースパレードなど市民の運動が盛り上がるなか、9月の市議会では民主党議員の提案により、「憲法の掲げる恒久平和の理念に基づき、不戦の

誓いを堅持し、戦争を許さず、平和な国際社会の実現に向けて歩んでいく」ことが明記された「不戦の決議」を全会一致で採択、11月には超党派の元議員16人が「立憲主義・民主主義を取り戻すアピール」を発表するなど、党派を超えた戦争反対の声が広がりました。

「市民の平和への願いを信頼して、市民に声をあげてもらう機会を提供する、市民参加の運動を大事にしてください。ハードルを下げてだれでも参加できる運動を追求した結果です」と日野の会事務局の磯崎四郎さんは手ごたえを感じています。

31日の平和のつどいとパレードは去年から通算で3回目。主催者は、過去最大規模で成功させようとの意気込みで、市が管理する350すべての公営掲示板にお知らせチラシを張り、商店街にも協力を呼びかけました。パレードのため駐車場を貸してくれた中華料理店は、パレード参加者への生ビール割引まで提供するなどの反響がありました。

「平和を守る会かわせみ日野」は昨年12月、署名活動を推進するため、党派や思想信条を超えて結成されました。

活動の中心になった「戦争はいやだ！平和憲法守ろう！日野の会」は、昨年10月の集会パレードの企画にあたり、「戦争法の廃止を求める市民アピール」を出し、1175人の賛同を得て、連名によるチラシ10万枚を作製。全家庭に届け、宣伝と呼びかけを繰り返して

「スーパー前で安売りに並ぶ市民にも呼びかけ、高層不動産の節分会で訴えるなど、連日の街頭行動にとりくんでいます。会呼びかけ人の一人、花田照さん(73)はいいままです。

「平和の時代を途切れさせないことが、戦後生きてきた者の責任です。必死になつて署名に取り組んでいきたい」